

平成30年第2回 運営協議会報告書

報告年月日 平成31年3月30日(土)

報告者 齊藤 富美子

1. 用務	平成30年度 第2回運営協議会			
2. 日時	平成31年3月30日(土) 13:30~15:00			
3. 会場	アイーナ6階 講師控室1・2			
4. 参加者	県企画室 成田 雄氣	主査	センター 野澤 日出夫	センター長
	県企画室 目時 麻由	主査	センター 佐々木 明宏	副センター長
	運営委員 中島 清隆	委員	センター 櫻井 則彰	事務局長
	運営委員 生田 弘子	委員	センター 齊藤 富美子	センタースタッフ
	運営委員 加藤 直子	委員		
	運営委員 千田 恭平	委員		
5. 議事	第2回運営協議会の開催			
	<p>※実施写真添付 環境学習交流センターにお集まりいただき野澤センター長がセンターについて説明 その後6階講師控室に移動、次第に沿って進められた。</p> <p>【会議の内容】</p> <ol style="list-style-type: none">1 開会2 代表理事挨拶3 両センター評価について4 議事<ol style="list-style-type: none">1) 両センター事業実績説明2) 今後の運営に向けて5 その他6 閉会 <p>1 開会の言葉 櫻井事務局長より</p> <p>2 代表理事挨拶</p> <p>【挨拶内容】</p> <p>本日は年度末のお忙しい中を遠路から運営協議会にご出席頂きまして、ありがとうございます。日ごろ何かとご指導戴いておりますこと、この場をお借りして御礼申し上げます。また県のご担当者も休日にも関わらずオブザーバー参加下さり感謝申し上げます。</p> <p>さて、世界の地球温暖化対応は特にパリ協定以来急速に進展していて、例えばノルウェー・オランダが、2025年には、現在のエンジン付き自動車のハイブリットを含めた製造・販売を禁止する決議をするほどの速さで進められています。また、昨年十数年ぶりに訪問しましたデンマークにおいては、国の政策によって当時と比べ一層ステップアップし戦略的な取組になっていて、すでに風力発電だけでも60%に近い電力をえており、以前は農家個人個人の設置であったものが、組合組織で集約して数を減らしてまた、国の法律により景観に配慮しつつ、当時の数倍もの能力を持つ風力発電に代わっていました。また洋上風力では、その3倍以上の能力、直径160m以上の大型発電が今年から稼働しています。</p> <p>また、ラグビーワールドカップの、釜石・鶴住居で試合が行われるウルグアイでは、化石エネルギーに対する危機感から、再生可能エネルギーへの転換を風力・太陽光・地熱・などにより世界中からの投資を集め一気に進め、現在97%・ほぼ完全にエネルギー変換が行われて世界の注目を集めているなど、国情にあった各国の取り組みで今世紀後半には脱エネルギーを達成する、パリ協定の約束を守る方向で大きく動いています。</p> <p>しかし、日本においては、エネルギーミックスの政策に見られる様にパリ協定を無視した政策によって、ミスリードされ再生可能エネルギー転換は大幅に先送りされています。よう</p>			

やく環境省も石炭火力発電の新設に待ったをかけましたが、世界の取り組みからは大きく取り残されているのが現状であります。

昨年6月には、環境省は国際イニシアチブ「RE100」（再生可能エネルギー100%）を申請しています。グローバル企業の再生可能エネルギーの導入拡大を進める取組で、遅くとも2050年までに再エネ100%を達成することを要件とした、長期的な宣言をすることを想定したイニシアチブです。先進的な企業は既にこれに向けて動き始めていますが、私達としては次代を担う岩手県民に負の遺産とならない方向での活動は進めなければならないと思っています。

そのような中で、本年度も誰一人取り残さないと言うSDGsについても意識しつつ、出来る範囲で活動を行って参りました。本日の協議会では、活動内容についての詳細は前回もご説明して居り割愛して、前回の協議会で委員の皆さまから前向きなご指摘を戴きました事案につきまして、私どもが今後の取組みにどの様に生かそうとしているかについてご説明して、皆様からご意見を賜ればありがたく思います。その後お時間の許す限り、センター活動として県民のために何が必要か、何が不要か今後の運営全般にわたり、忌憚のない意見交換をお願いできればと思っています。本日はよろしくお願ひいたします。

○議長は会長が行う

○議長：中島 清隆氏進行

両センターの実施状況の説明をお願いします。

○櫻井事務局長：

運営委員の皆様から頂いた課題と回答について説明（資料8参照）

環境学習交流センターについて説明

地球温暖化防止活動推進センターについて説明

○議長：

第1回運営協議会で委員の皆様から出していたいただいた課題に関する回答ということでご両センターの業務実施状況について御説明頂きました。今後の両センターの運営について御回答の中にこれまでの実施状況と来年度どうしていくのか説明頂きましたので議事1) 2) を同時に進めてまいります。

委員の皆様からご意見ご質問等ありましたらどうぞ

千田委員：

学習交流センターの方ですが、委員からの課題に対して正面から回答いただき、しかも書面にさせていただき参考になりました。考えていること方向性もよくわかり、誠実に対応していただいたなという気がします。今後の事も含めてですが、地球温暖化防止活動推進センター3の地球温暖化防止活動推進員活動支援業務の研修意見交換会について回答に身近な事例について共有を図りますとあるが、これまで実施した状況で効果あったものは継続していやっていく、効果なかったものに関しては考えてみることもよいと思います。また映画の上映という事で事例の紹介ですが、一関の地球温暖化対策地域協議会で「おだやかな革命」という映画上映会を行いました。一関に1つしかない映画館80名集客と140名集客のホールがあるが、初めは80名で行おうと思っていた。しかし申し込みが増え、140名のホールに変更を考えていたところさらに増え80名と140名の二つのホールで上映することになった。実際前売り券は200枚ほど売れたが、当日の参加は168名であった。東京からも2名、葛巻などからも来ていただきアンケートもよい評価であった。お金を出しても興味関心持ってくれる方がいるのだなと思った。3か月前には無料で別団体が映画上映会を行ったが30名だった。映画というのはお金を出してもよいツールなのだなと思いました。参考までに。「おだやかな革命」は温暖化、CO2の削減がドキュメンタリー形式になっています。

葛巻の酪農家の方を取り上げた映画もタイトルは忘れましたがいい映画です。センターもよい場所ですからどんどん発信してはどうでしょうか？

加藤委員：

難しい映画のようだけれど集客はどのようにしたのですか？

生田委員：

宣伝の仕方、何かありましたか？

千田委員：

市の広報、新聞、協議会委員が、良い映画を上映するからとって宣伝をして歩いた。

生田委員：

宣伝だけではなくフェイス to フェイスで伝えた効果が大きかったのでしょうか。

どのような方が見に来ましたか？

60代以上の高齢者が多かった。学生は500円にしたが1名だけだった。

加藤委員：

どうしてこの映画を知ったのですか？

千田委員：

協議会の委員の中にこの映画を見た方がいて良い映画だから上映してはどうかということになった。しかし採算とれるかどうか心配な面もあった。リスクも大きかったがやってみようということになりふたを開けてみたら大成功であった。リスクをあまり考えずにやれるだけやってみようということをやってみることも大事なと思う。

一関市は市内に1個しか映画館ないです。以前は5個くらいありました。

加藤委員：

てっぱん映画祭というのを若い方がスタートさせて、アンケートを取って、みたい映画の上位から上映している。DVD レンタルの店がどんどん倒産しているのは今のテレビでDVDが見られるから。

千田委員：

運営協議会の開催について12月に大量の資料と一回説明を受けてすぐ3月の評価であれば厳しいなと思っていた。

四半期ごとに区切ってその都度であれば年間1/4ずつで評価もしやすい。それを活かして次の四半期を加味して評価していけば目の届く範囲が深まることもある。これはいいのかなと思いました。

加藤委員：私もそう思います。一回に年間にやっていることを報告されると自分が関わったことであれば意見言えるけど、知らない部分については意見が言えない苦しい部分があるのかな。範囲が狭まればいくらでも意見を述べたり調べたりすることがやりやすい。ただしセンターが書類をつくったりすることが大変なのではないかと思う。

釜石にもエコクラブがありまして、私が代表をしています。最初はうちのクラブもエコクラブミーティングに出ていたが、だんだん年取ってくると、電車に乗ってバスに乗って、タクシーに乗っての工程を考えると苦痛になってきた。いまは、バックアップは教育委員会がやってくれている。

年間に一度エコクラブのミーティングの連絡があるけれど、子供たちを連れていくことの責任の重大さとたいてい冬に行われていて参加しにくい、参加したとして役に立ったかという環境は地域によって違う。言い訳になりますがリストには入っていない。活動しているけれどリストに入っていない方はいらっしゃるのでないか。掘り起こすところにエネルギーを使わなくてもよいのではと思います。参加したいと思えば自分の方から参加させてくださいと言うのではないかと思います。やること、発信は必要だけれど参加者数に重点を置く必要はないのではと思います。

野澤代表：

活動やっているところとのつながりを増やしていきたいなと思っている。その活動を皆さんにお知らせする。活動している実態が分かればいいなと思っています。

生田委員：

二戸はエコクラブとは言わないけれど子どもを集めて廃品回収したりしている団体はあります。声かけられるのが煩わしいということがありこの人たちの活動いいなと思ってお声がけしたけれど「私たちはいいんです」となる。

県内全部のエコクラブでネットワークを作るといのはなかなか難しいと思う。

事務局はネットワークづくりで苦勞されているのでそこをどうするのが大事だと思う。

佐々木：

以前は環境省の事業であったが、事業仕分けで無くなった。

いまは民間団体が細々と継続している。かつては市町村にも担当者がいた。

加藤委員：

バッチ、シール、ノートをいただいていたが結局使わない。もったいないな～と思っていた。

佐々木：

北東北3県知事の合意で青森、秋田、岩手合同で大々的に行っていた時期があった。本来は個別の自由な活動なので「ネットワークがあれば良かったのに」というところとうまくつなげればよいと思う。

加藤委員：

今は徒党を組まない。自分は自分のやり方でということが多くなっている。

私はアドバイザーで水生生物調査を行っているのですが先生方の知識や熟練が必要だと思っています。道具もわからない、子どもにどういう準備をさせたらいいですか？という状況。活動も見ているだけで参加しない。先生方も事前学習を行なえば興味がわいてくるのではと思います。教科書のどこの部分でこの総合学習を行うのか聞いたところ、水がどうやって自分たちが飲めるようになるかという一部であった。先生方は調査に集中しないで生徒指導に気を取られている。

生田委員：

振興局と、薬剤師会、カシオペア環境研究会、生活環境課とタッグを組んで、時々事前授業を行う。実際川まで行ったりしつつ、子供たちの事前学習も行ってた。安全、安心の面からライフジャケットも全部準備している。順番で借りられるようにしている。事前授業をしないと先生方もわからないと思う。

保護者の方にも出られる方は出ていただくようにお声がけすると4～5名は出てくれる。

佐々木：

二戸の振興局と市と一緒にやるのはとてもいいですね。

生田委員：

薬剤師会に申しこみが来た時は振興局に連絡をし、振興局に申し込みが来た時は薬剤師会に連絡が来るようになっていて相互に連携できるシステムとなっている。

千田委員：

授業の一環として行うのですか？

生田委員：

二戸は授業の一環で行うのもあるが科学クラブとして行っているものもある。

加藤委員：

釜石は全て授業の一環である。

流域活動についてですが、「流域保全の会」各川に流域活動の会がありますがその事ですよ。いまは沿岸で活動しているところはない。

釜石の甲子川だけ3年前からやっと再開しているが、ここに来るのは各町内会の会長、環境アドバイザー、事業所の所長、社長、環境担当の方たちが集まって何をするかというと川にごみがたまっているから何とかしてくれという陳情の場となっている。じゃあみんなで川を見に行こう。

車で、す～と通るだけ。これ保全の会？と思った。流域保全の会の目的というのは川の保全をして行こうじゃないかということのはずだと思うのですが、本来の目的からずれてない？と思うことがあります。津波の被害があったばかりなので今は少し大目に見ていただいて今後の成長に期待していただければと思います。

櫻井：

大船渡の流域協議会の集まりに行ってきましたが環境保全団体は来ていなくて公的な立場の人、漁協、教育委員会、学校の先生しか集まっていない。メンバーの半分は欠席している状況だった。

加藤委員：

何のために流域保全の会を作ったのか考えてほしい。

千田委員：

一関の振興局にも環境保全の会があって県の補助金を活用した事業の発表みたいな形で集

まっている。集まっているが目的がはっきりしない。交流会なのか事例発表なのか目的をはっきりさせた方がよいと思う。年度末の消化試合のような感じである。

佐々木：

もとは森川海条例から来ている。健全な水循環をつくろうということで流域ごとの協議会を作り始まったものであるが活動としては止まってきている。

成田主査：

先進的な事例と自負しているのですが、時間がたっていることや震災などもあって現状として盛り上がっていないことは県も承知しているところです。一方で環境保護の取り組みに森川海と連携の取り組みはいっぱいあるので盛り上げていかなければならないという認識です。もう一つ今は海岸漂着物、海洋ゴミが問題になっていて実は岩手県が海洋漂着物の計画が出来ていない唯一の県です。次年度計画を作る予定となっている。既存の森川海も取り込みながら計画を作り盛り上げられるよう振興局と行っていこうと思います。

加藤委員：

川はごみだらけです。風が吹いたり、豪雨の時にはごみが川に集まってしまいます。「このままでワールドカップやるつもりなのか」と旗上げをしてごみ拾いを行った。高速道が開通、三陸鉄道も開通しましたが、高速道の開通式の時、おめでとう！と同時にくす玉が割れて風船がたくさん飛んで行った。海洋ゴミ問題がありストローやめようということになっているのになんてことするのかと思い、やめてもらうようメールを送った。一週間後に「今後は飛ばさないようにします」とお返事が来た。いかに国交省という立派な省でも現状を知らないのかと思った。言うことは大事なことだなと思います。

成田主査：

甲子川は行政だけでなく地元の方が会に出ていることを見ればいい状況なのかなと思います。後はどういうことをするのかははっきりすればいいのかなと思います。

千田委員：

川のごみは県にとってくれというのでもいいが、県も人手不足、一関は母の日にみんなで集まって下流から上流までごみを拾います。振興局にそれを伝えるとセンターの所長さんから数人が集まって軍手も協力してくれる。川の中に一緒に入ってやってくれている。「やったださいではなく一緒にやりましょう！」という気持ちが大切ではないか。

成田主査：

県土整備部の業務の中で河川ボランティアに支援するという事業があるので河川清掃やるとなったら県土整備部に声かけをしてはどうですか？つながりができると思います。

加藤委員：

地域の皆さんも含め自分たちでやらなければなりませんね。海を守らなければなりませんので。

佐々木：

環境省で「地域循環共生圏」という考え方で進めようとしている。

1. 事業の概要

本事業は、地域循環共生圏づくりプラットフォームを構築し、地域循環共生圏創造を強かに推進するため、「地域の総合的な取組となる経済合理性と持続可能性を有する構想策定及びその構想を踏まえた事業計画の策定」、「地域の核となるステークホルダーの組織化」等の環境整備と一緒に取り組んでいただける団体を20団体程度選定することを目的としています。

また、一定の条件を満たした団体（10団体程度）については、より具体的な事業計画を策定するため、専門家のチーム（支援チーム）を派遣します。

千田委員：

ひとつ失敗したことが一つあります。一昨年から去年にかけて環境学習講座。出張環境学習行っていたが相手の都合に合わせなければならぬためDVD作った方がよいと思い38万かけて作った。市内の公民館、学校に配布しようということで地元のテレビ局に頼んで作った。作る時に主導的に携わった事務局長が原稿を作った。目を通したところ難しすぎたのもっと優しく、短く30分位に縮めた。見てもらった感想を聞いたところ、難しいとの感想

	<p>であった。</p> <p>100人がみて100人が分かるようであればだめだなと反省しました。 お金をかけていくらいいものを作ってもむずかしくて見てもらえないものはだめですね。 一人の100歩より100人の一歩にするのが私たちの役目かなと思います。</p> <p>議長より： 委員の皆様からは貴重な御意見有難うございます。</p> <p>簡単な講評 盛岡駅に岩手県交通のバスがあつて「ゼロ・エミッションバス」と書いてあるのを見かけた。 入り口と出口がフラットになっている。SDGs、パリ協定、世界の大きなところでは大きな動きがある。国レベルで進んでいるところはあるが、日本の原発、エネルギー政策を見ると「進んでいるのかな」、「遅れているのかな」、と思うところがある。気づかないけれど大きな流れの中でしていることは岩手県の中でもあるのではないかと「ゼロ・エミッションバス」を見たときに感じた。大きな流れに比べると華々しいものではないかもしれないが震災があつた中での両センターとして地道にやってきた役割は大きなものがある。その受託団体である環境パートナーシップいわてはパートナーシップが重要なキーワードになっている。エコクラブ、教育委員会、岩手県、行政等様々な団体とのパートナーシップを結びながら地道な取り組みを続けていきながら大きな流れを取り入れ引き続き続けていくことが大きいのかなと本日の運営協議会で感じたことです。</p> <p>※ゼロ・エミッション (zero emission) とは、環境を汚染したり、気候を混乱させる廃棄物を排出しないエンジン、モーター、しくみ、または、その他のエネルギー</p> <p>事務局： 運営委員の皆様へ評価項目、評価シートの提出について 提出日：4月26日まで</p>
6. 特記事項	無し
7. 概要・所感	<p>平成30年度第2回目の運営協議会はセンター内にて現在の展示状況や今後の展開について野澤センター長より説明を行いました。その後開催場所へと移動し議事に沿って会は進められました。第2回目の運営協議会は第1回目の運営協議会で委員の皆様から頂いた課題に対する回答を中心に説明をいたしました。センター運営に対する課題については今後の方向性などを示し、「誠実な回答であつた」と評価を頂くことが出来ました。</p> <p>次年度の運営に関しては課題を事業に反映させるとともに、新たな視点を持ちながら活動してまいります。環境パートナーシップという重要なキーワードを持つ両センターの受託団体として様々な団体とのパートナーシップを築きながら真摯に事業を行ってまいります。</p>